

経済レポート

グラフで見る東海経済(2017年4月)

調査部 塚田裕昭 杉本宗之

【今月の景気判断】

東海経済は、横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる。生産は横ばい圏で推移しており、輸出は持ち直している。雇用は、総じて横ばい圏で推移している。賃金は持ち直しの動きが見られる。個人消費は、指標によるばらつきはあるが総じて見ると横ばい圏で推移している。設備投資は、非製造業を中心に増加している。住宅着工は、横ばい圏で推移している。公共投資は、基調は弱含みだが足下で増加している。

先行きは、世界経済が緩やかに回復する中、持ち直しの動きが続くと見込まれる。生産は輸送機械が横ばいとなる中、全体としても横ばい圏での推移が見込まれる。輸出は、米国向けを中心に持ち直しの動きが続くと見られるが、新興国経済減速の影響に留意が必要となる。消費は、所得環境の緩やかな持ち直しを見込むものの、横ばい圏での推移となる。設備投資は増加基調、公共投資は均してみると横ばい圏の推移が見込まれる。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	→		→	輸出			
個人消費	→		→	輸入	→		→
住宅投資			→	生産	→		→
設備投資				雇用	→		→
公共投資			→	賃金	→		→

(注)1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

(注)2. シャド部分、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～朝鮮半島情勢、イギリスのEU離脱問題、欧州選挙、トランプ政権の経済政策などの行方
- ・企業活動～電子部品デバイスの生産・在庫動向、自動車関連の生産動向、下げ止まりの動きが見られる工作機械受注、インバウンド消費の先行き、企業収益と設備投資の動向
- ・政策～金融政策の今後の展開、2016年度補正予算の効果
- ・家計～賃金の改善状況と物価動向の家計消費への影響、資産価格変動の影響

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る東海経済」の見方】参照

【各項目のヘッドライン】

項目	3月のコメント	4月のコメント	ページ
1. 景気全般	横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる	横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる	4~5
2. 生産	持ち直しの動きが一服している	横ばい圏で推移している	6~8
3. 雇用	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	8~9
4. 賃金	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる	10~11
5. 個人消費	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	11~13
6. 住宅投資	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	14
7. 設備投資	非製造業を中心に増加している	非製造業を中心に増加している	15~16
8. 公共投資	基調は弱含みだが足下で増加	基調は弱含みだが足下で増加	17
9. 輸出入	輸出は持ち直しの動きが一服、輸入は横ばい	輸出は持ち直し、輸入は横ばい	18~19
10. 物価	横ばい	横ばい	19
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	20
12. 倒産	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに減少	20

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(*) 参考資料: 「グラフで見る景気予報」 <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】

2. 生産

2月の東海3県の鉱工業生産(速報)は前月比+1.3%と2ヶ月ぶりに増加したが、均した動きは横ばいとなっている。

9. 輸出入

2月の実質輸出(季調済)は前月比+5.0%と2ヶ月ぶりに増加した。

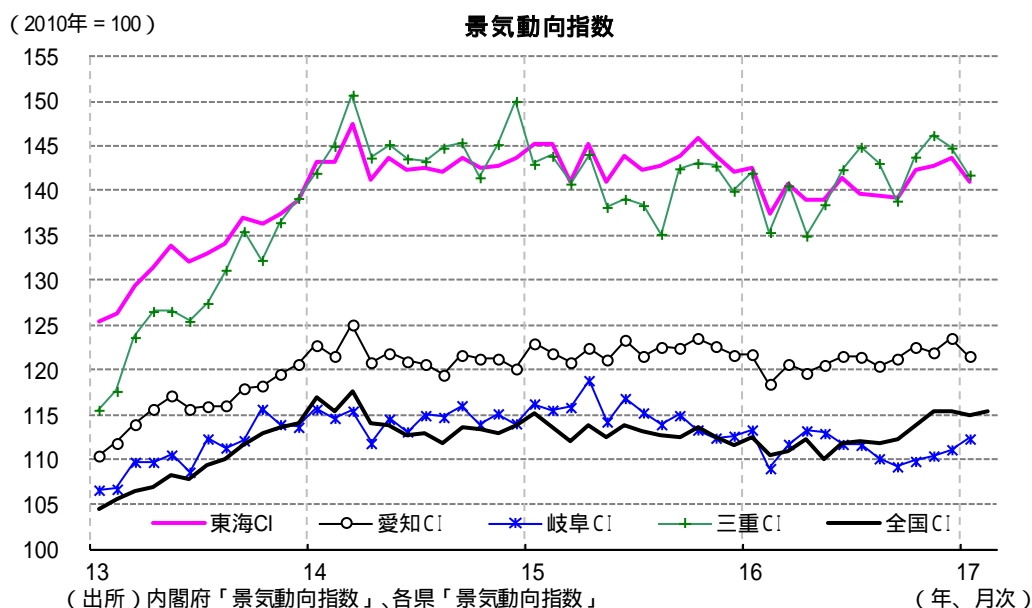
【主要経済指標の推移】

経済指標		16 1-3	16 4-6	16 7-9	16 10-12	17 1-3	16 10	16 11	16 12	17 1	17 2	17 3
景気全般	東海景気動向指数(CI、一致指数)	140.2	139.8	139.4	142.9		142.4	142.7	143.6	140.9		
	景気動向指数 愛知(CI、一致指数)	120.3	120.6	121.1	122.7		122.6	122.0	123.6	121.6		
	岐阜(CI、一致指数)	111.4	112.7	110.4	110.5		109.9	110.5	111.2	112.4		
	三重(CI、一致指数)	139.3	138.6	142.3	144.9		143.8	146.2	144.8	141.8		
	景気ウォッチャー調査(現状判断DI、季節調整値)	45.5	41.4	44.7	49.1		48.5	48.7	50.1	49.6	50.3	48.9
	(先行判断DI、季節調整値)	48.0	42.2	47.9	51.1		51.2	51.0	51.0	48.1	52.3	47.8
短観業況判断DI(大企業製造業)	(中小企業製造業)	1	3	12	6	12	8	<6月予想>				
	(非製造業)	-3	-7	-6	4	5	-1	<6月予想>				
法人企業統計経常利益 製造業(兆円)	非製造業(兆円)	11	6	6	12	11	5	<6月予想>				
		0.5	0.8	0.6	0.9							
生産	鉱工業生産(季節調整済、前期比・前月比)	-4.7	0.4	3.1	1.7		2.1	-0.4	0.4	-2.0	1.3	
	鉱工業出荷(季節調整済、前期比・前月比)	-4.5	0.4	2.6	3.4		3.0	-0.5	0.2	-2.1	1.2	
	鉱工業在庫(季節調整済、前期比・前月比)	-0.9	2.3	-5.0	-5.7		-2.4	-0.2	-2.0	-3.1	-2.9	
	鉱工業生産 輸送機械(")	-4.5	3.8	4.0	0.9		-0.9	-1.8	3.7	-5.5	2.0	
	はん用・生産用・業務用機械(")	-5.4	-1.8	-1.0	6.1		4.6	-3.2	4.0	-1.6	-0.2	
	電子部品・デバイス工業(")	-7.1	-10.2	3.5	3.5		11.8	5.4	-7.9	12.4	-4.8	
	プラスチック製品工業(")	-7.4	3.4	6.3	-1.9		-0.8	-2.6	1.3	-5.7	2.0	
	化学(")	-2.7	6.5	4.2	-1.9		-3.2	6.0	-2.2	0.6	-1.8	
	電気機械(")	0.1	4.0	4.4	2.9		-4.3	4.9	-0.3	-10.1	10.2	
	鉄鋼(")	-6.4	7.9	-1.1	3.6		0.9	-0.2	0.3	-1.0	1.9	
	金属工作機械受注 総受注(億円)	346.2	351.9	337.0	350.1		305.3	390.3	354.6	323.7	321.1	
	国内受注(億円)	116.4	130.6	135.8	126.2		126.7	125.0	126.8	108.1	116.7	
海外受注(億円)	229.7	221.4	201.2	223.9		178.6	265.3	227.8	215.6	204.4		
雇用	完全失業率(原数値、%)	2.8	2.5	2.3	2.5							
	就業者数(原数値、万人)	784	789	780	777							
	常用雇用指数 愛知	99.3	100.5	101.0	101.1		101.0	101.1	101.1	100.0		
	岐阜	101.6	102.3	102.5	102.0		102.5	101.1	102.5	102.1		
	三重	99.5	99.6	100.1	100.1		100.3	99.9	100.0	99.6		
	有効求人倍率 愛知(季節調整値、倍)	1.6	1.6	1.6	1.7		1.66	1.68	1.70	1.70	1.72	
	岐阜(季節調整値、倍)	1.7	1.8	1.7	1.7		1.71	1.71	1.69	1.70	1.69	
	三重(季節調整値、倍)	1.4	1.4	1.5	1.5		1.47	1.46	1.50	1.46	1.44	
新規求人倍率 愛知(季節調整値、倍)	2.5	2.5	2.5	2.7		2.59	2.57	2.84	2.64	2.53		
岐阜(季節調整値、倍)	2.4	2.5	2.4	2.4		2.46	2.48	2.39	2.49	2.31		
三重(季節調整値、倍)	2.0	2.0	2.1	2.1		2.15	2.02	2.23	2.08	2.00		
賃金	現金給与総額	0.6	0.7	-0.5	0.7		0.2	2.2	0.3	0.6		
	所定内給与	-0.5	-1.0	0.8	0.8		0.5	1.1	0.9	1.1		
	所定外給与	-0.7	0.0	-3.6	-3.5		-3.2	-4.2	-3.2	-3.4		
	勤労者世帯(含む農家)の名目収入 勤め先収入	-10.6	-1.3	-2.9	1.4		-2.4	0.8	3.8	11.3	7.2	
定期収入	-10.6	-1.3	-2.9	1.4		-2.5	-0.5	4.3	8.1	3.9		
個人消費	勤労者世帯(含む農家)の名目消費支出	-3.6	4.2	3.7	2.0		5.4	-1.9	2.3	-9.3	-8.9	
	百貨店販売額(名古屋市内)	-2.0	-0.8	-14.3	-4.5	0.0	-1.3	-2.5	-1.3	-1.9	0.5	1.4
	百貨店+スーパー販売額	-2.4	-6.2	1.3	1.2		-1.4	0.2	-2.1	-1.8	-2.2	
	コンビニエンスストア販売額	4.5	2.7	3.2	4.5		5.0	4.4	4.2	3.6	0.4	
	新車登録台数(含む軽)	-6.9	-1.3	3.0	7.3	6.7	1.2	9.8	10.6	2.0	9.1	8.0
	家電大型専門店販売額	-0.6	1.2	-3.2	0.3		3.6	-3.0	0.6	-2.0	0.0	
	消費者態度指数(一般世帯、原数値)	41.4	40.9	41.4	41.1	42.7	41.1	40.1	42.2	42.2	41.9	44.0
トヨタ国内生産台数(季節調整値、万台)	25.5	25.6	27.6	26.9	26.2	25.7	27.6	27.4	25.6	26.3	26.7	
住宅投資	新設住宅着工戸数(季節調整済年率換算、千戸)	106.5	106.5	111.3	109.0		110.4	114.3	102.2	100.6	110.7	
	(前年比、%)	5.6	0.6	5.1	8.6		11.1	13.3	1.0	-0.1	2.3	
設備投資	法人企業統計設備投資(製造業)	2.7	11.3	-6.6	-0.8							
	(非製造業)	-3.1	22.9	9.5	17.9							
企業立地件数	-	-	-	-	-	11						
公共投資	公共工事請負額	7.3	-10.4	3.2	-10.2	20.7	-12.7	-15.7	-1.3	10.5	49.9	10.2
輸出入	実質輸出(季節調整済、2010年=100)	112.0	110.3	112.5	114.8		114.6	114.7	115.0	110.8	116.4	
	通関輸出(金額ベース、円建て)	-6.9	-8.4	-10.8	-6.7	3.5	-14.3	-5.0	-0.5	-6.4	8.7	7.2
	実質輸入(季節調整済、2010年=100)	116.9	115.2	112.2	113.3		115.0	113.2	111.8	117.4	116.4	
	通関輸入(金額ベース、円建て)	-17.1	-19.1	-22.4	-12.6	6.0	-21.6	-9.2	-6.1	3.5	1.5	12.8
物価	消費者物価指数(除く生鮮)	-0.3	-0.6	-0.6	-0.4		-0.4	-0.5	-0.4	0.1	0.2	
	(食料及びエネルギーを除く総合)	0.5	0.5	0.1	0.0		0.2	0.0	-0.2	0.0	-0.2	
金融	国内銀行預金残高	2.7	3.0	3.3	3.8		3.4	4.1	4.0	3.8	3.3	
	国内銀行貸出残高	1.6	1.3	1.4	2.4		2.1	2.4	2.7	3.0	3.3	
倒産	倒産件数	-5.5	-11.1	-4.4	26.6	0.0	4.7	13.2	83.8	2.2	7.3	-6.8

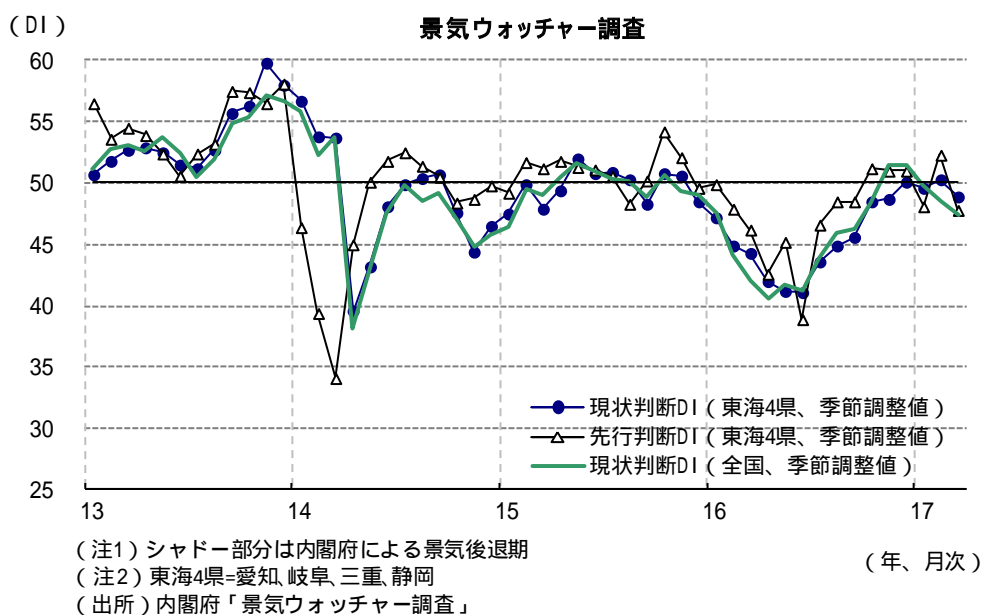
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ~ 横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる

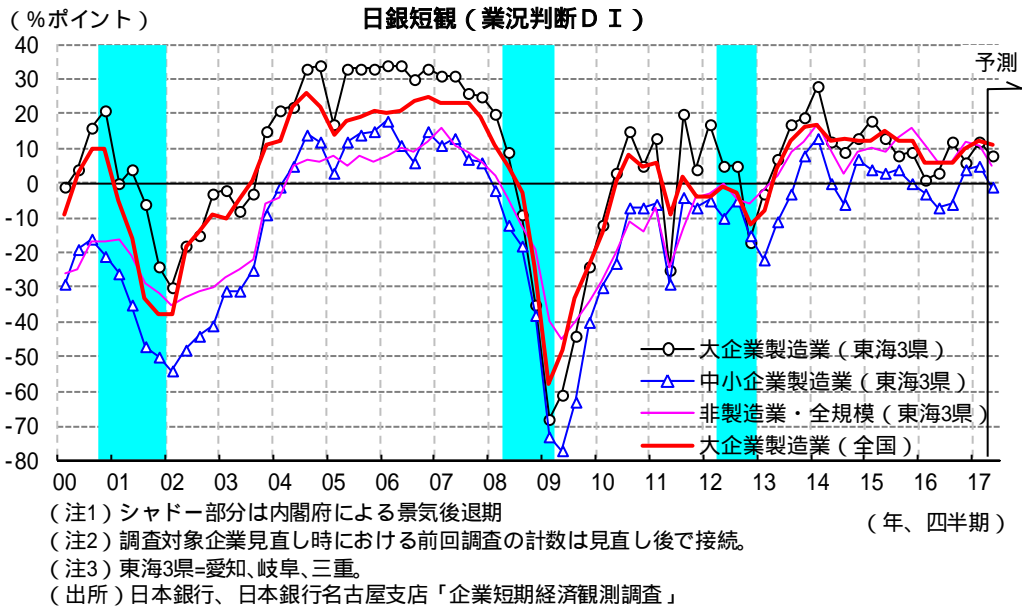
1月のMURC東海景気動向指数(CI一致指数)は、採用系列7系列のうち、実質輸入を除く6系列がマイナス寄与となり、前月差-2.7ポイントの140.9と4ヶ月ぶりに低下した。各県の動向を見ると、岐阜県のCI一致指数は4ヶ月連続で上昇したが、愛知県は2ヶ月ぶりに低下し、三重県は2ヶ月連続で低下した。



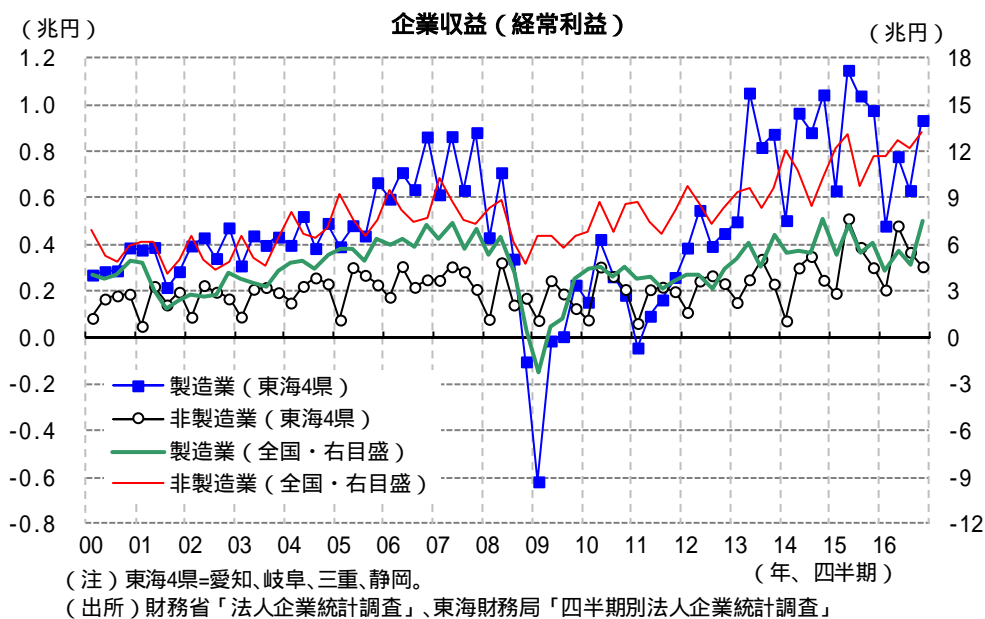
3月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断DI(季節調整値)が前月差-1.4の48.9と2ヶ月ぶりに低下した。また、先行き判断DI(季節調整値)は、同-4.5ポイントの47.8と2ヶ月ぶりに低下した。全11地域中で東海も含む7地域で現状判断DIが低下した。また、先行き判断DIに関しては、全11地域中、東海は最も下げ幅が大きくなった。



日銀短観3月調査では、東海3県の大企業製造業の業況判断D I(「良い」-「悪い」)は+12と、前回12月調査から6ポイント上昇、中小企業製造業は+5と1ポイント上昇、非製造業[全規模]は、+11と1ポイント低下した。業況判断D Iの6月予測は、大企業製造業(+8)と中小企業製造業(-1)、非製造業[全規模](+5)はいずれも3月に比べて悪化が見込まれている。

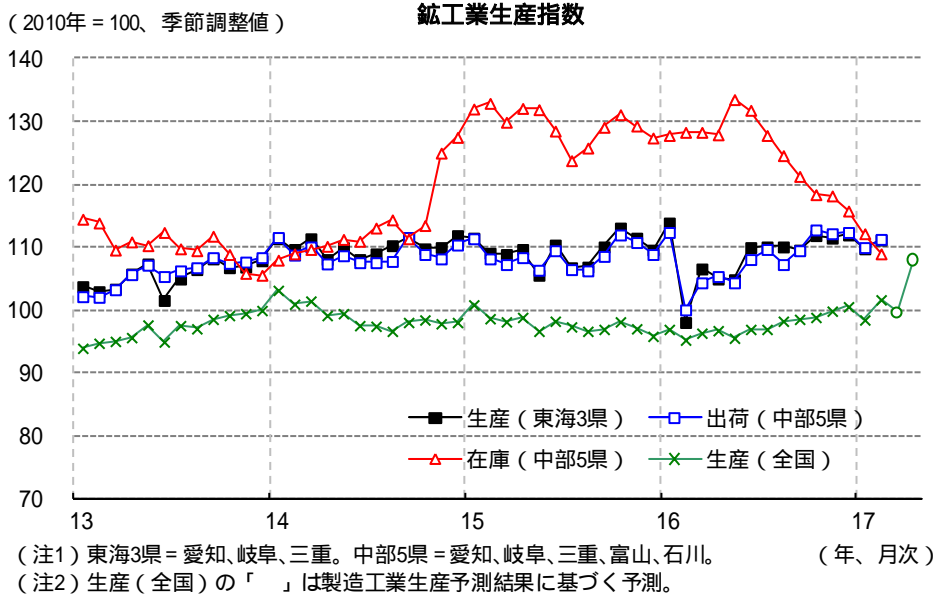


2016年10~12月期の東海4県の大企業の経常利益は前年同期比で-3.0%と5四半期連続で減少した。非製造業は同+1.3%と3四半期ぶりに増加したが、製造業が同-4.4%と5四半期連続で減少した。日銀短観3月調査では、16年度の経常利益(全産業)は同-19.7%と減益を見込むが、前回12月調査時から上方修正されている。17年度は全産業(同+0.3%)、非製造業(同+1.1%)で増益、製造業は前年と同水準の見込みとなっている。

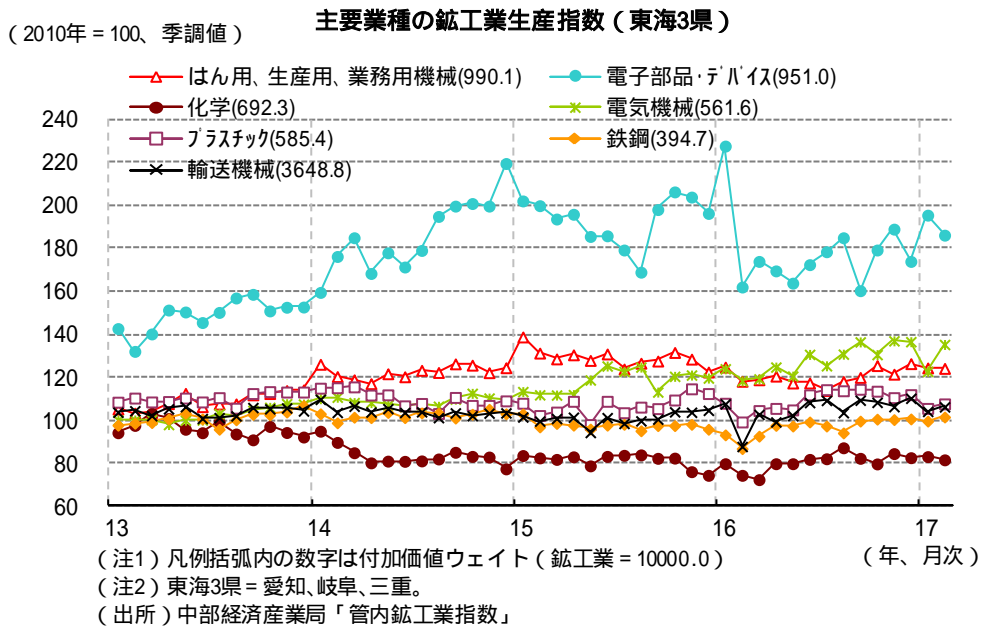


2. 生産 ~ 横ばい圏で推移している

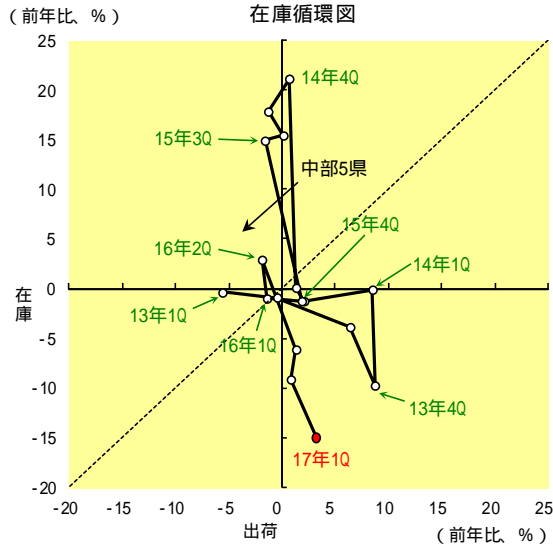
2月の東海3県の鋳工業生産は前月比 + 1.3%と2ヶ月ぶりに増加した。電子部品・デバイス、化学などが減少したが、輸送機械、プラスチック製品、電気機械などが増加した。東海の実生産は、横ばい圏で推移している。先行きについては、主要業種である輸送機械が横ばい圏となる中、全体としても横ばい圏での推移が見込まれる。



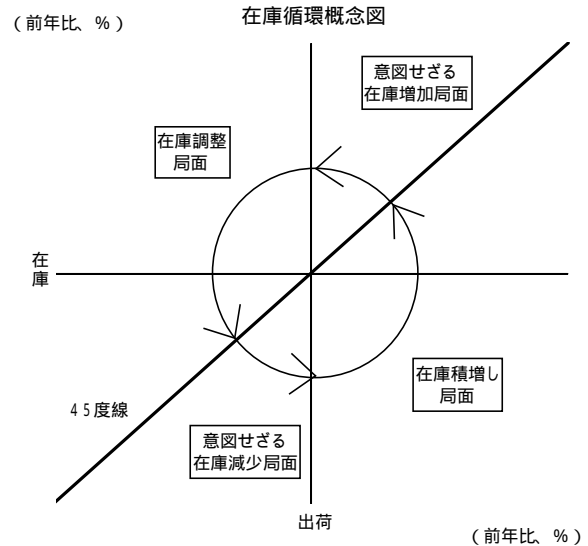
業種別では、電子部品・デバイス (前月比 - 4.8%)、化学 (同 - 1.8%) はともに2ヶ月ぶりに減少したが、輸送機械 (同 + 2.0%)、プラスチック製品 (同 + 2.0%)、鉄鋼 (同 + 1.9%) はともに2ヶ月ぶりに増加し、電気機械 (同 + 10.2%) は3ヶ月ぶりに増加した。



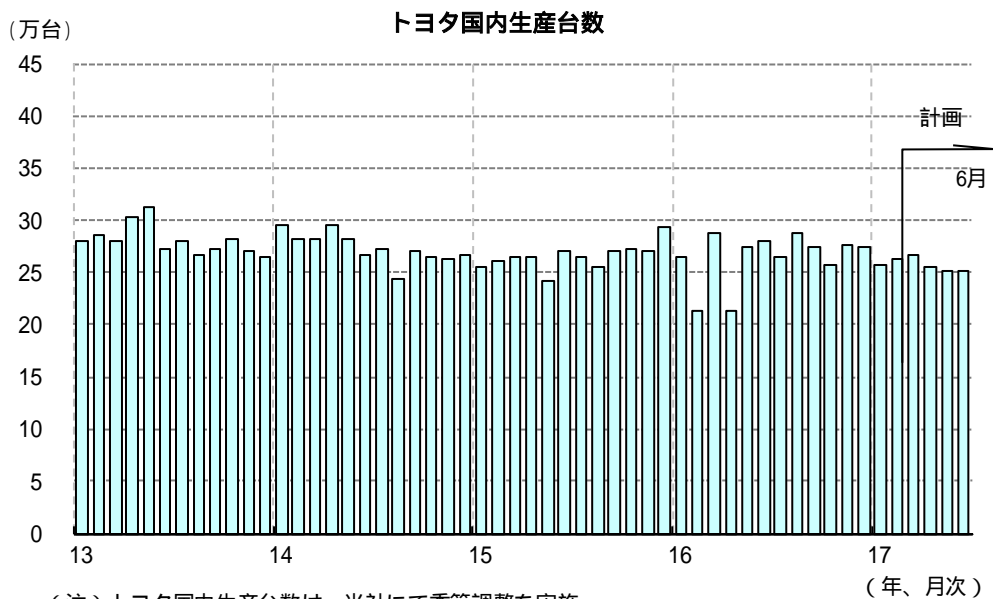
2月の中部5県の出荷は、前月比+1.2%と2ヶ月ぶりに増加した。化学(同-4.7%)、電子部品・デバイス(同-0.9%)などが減少したが、輸送機械(同+1.9%)、電気機械(同+9.2%)、鉄鋼業(同+6.4)などが増加した。在庫は、同-2.9%と9ヶ月連続で減少した。石油・石炭製品(同+4.9%)、化学(同+0.9)などが増加したが、電気機械(同-8.4%)、電子部品・デバイス(同-14.8%)などが大幅に減少した。



(注1) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
 (注2) 中部5県= 愛知、岐阜、三重、富山、石川。
 (注3) 直近17年1Qの出荷は1,2月平均、在庫は2月の前年比
 (出所) 経済産業省「鉱工業指数」中部経済産業局「管内鉱工業指数」

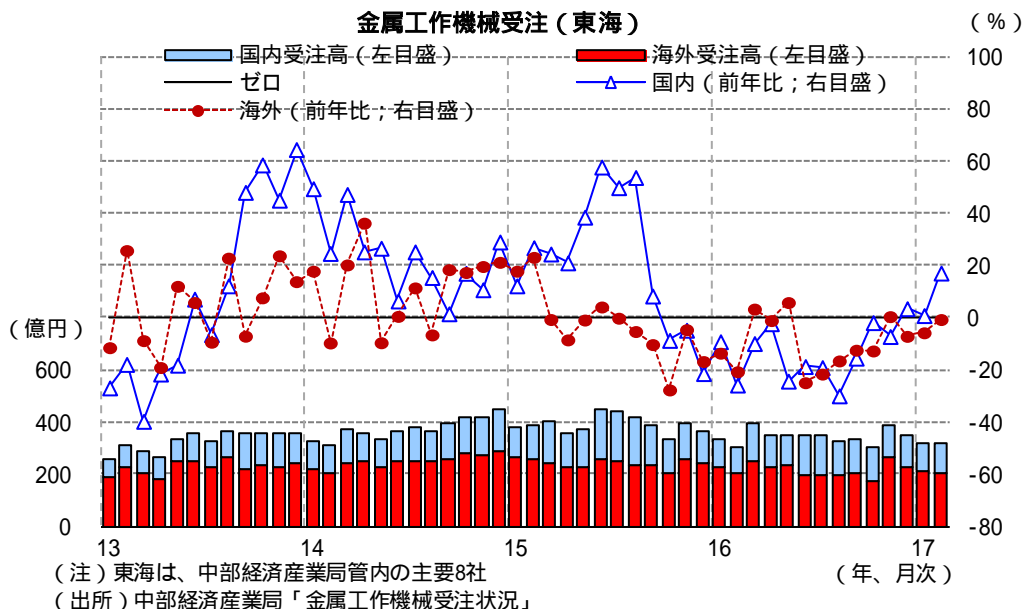


中部経済新聞社報道のトヨタ自動車国内生産計画によると、向こう3ヶ月(17年4~6月)の国内日当たり生産台数は1万2千台で推移する見込みである。季節調整済みの数字で見ると、17年に入ってから生産は昨年秋頃に比べるとやや低い水準で推移しており、先行きも同様にやや低い水準での生産が計画されている。



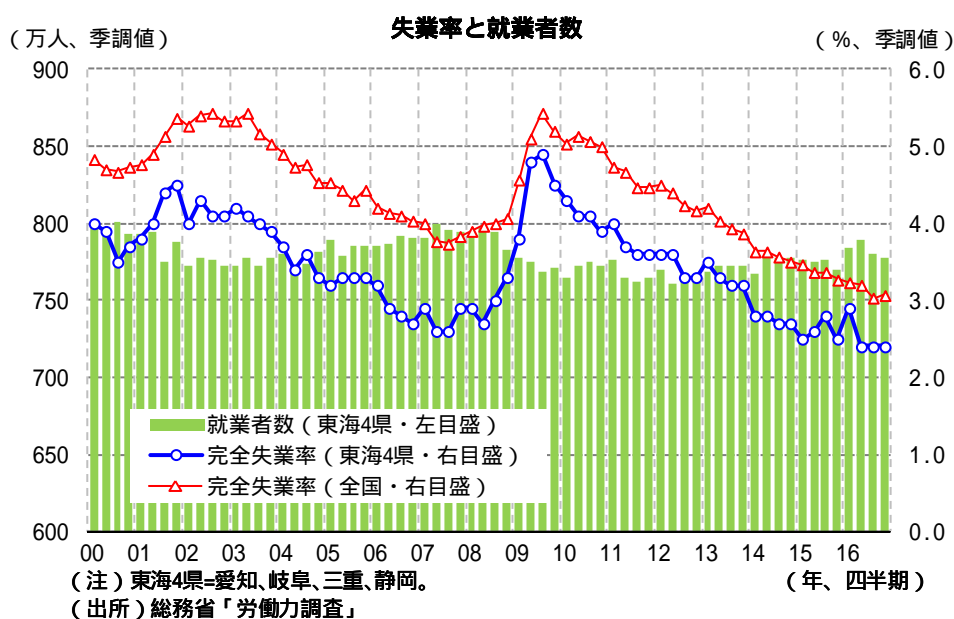
(注) トヨタ国内生産台数は、当社にて季節調整を実施。
 (出所) トヨタ自動車「生産・国内販売・輸出実績」、中部経済新聞「トヨタ生産計画」

17年2月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は、前年比+5.2%と18ヶ月ぶりに増加した。海外受注(同-0.6%)は3ヶ月連続で減少したが、国内受注(同+17.2%)が3ヶ月連続で増加した。地域別では、欧州向けは3ヶ月ぶりに、アジア(含む中国)向けは2ヶ月ぶりに減少したが、米国向けは5ヶ月ぶりに増加し、中国向けは2ヶ月連続で増加した。

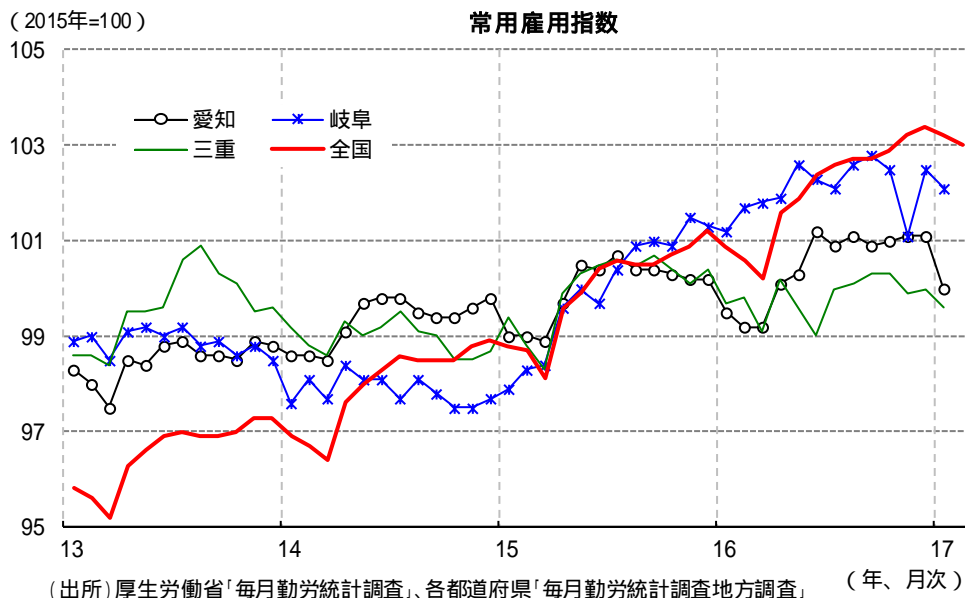


3. 雇用 ~ 横ばい圏で推移している

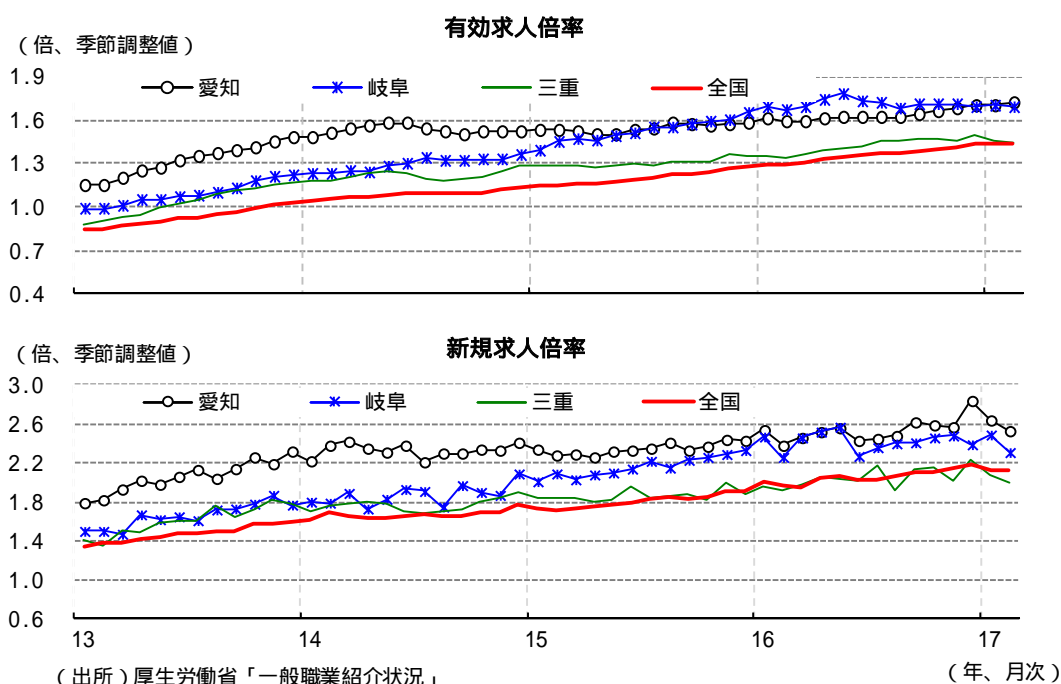
2016年10~12月期の東海4県の完全失業率は2.4%(前期と同水準)となり、全国(3.1%)と比べても低い水準で推移している。同時期の就業者数は前期差3万人の減少、完全失業者は同1万人の増加となった。有効求人倍率は高水準で横ばい圏で推移しているが、東海3県の常用雇用指数は、全国に比べて弱い動きとなっている。



1月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県が前年比+0.5%と8ヶ月連続で上昇し、岐阜県は同+0.9%と2ヶ月連続で上昇した。一方、三重県は同-0.1%と9ヶ月連続で低下した。東海3県の常用雇用指数は、前年比で見て、3県いずれも全国(同+2.3%)と比べて弱い動きとなっており、このところ横ばい圏で推移している。

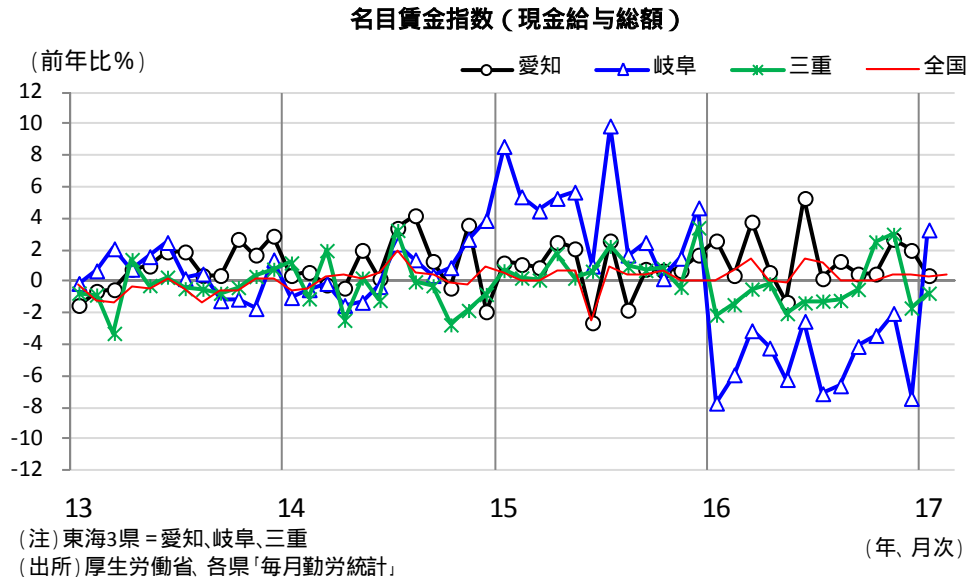


2月の東海3県の有効求人倍率(季節調整値)は、高水準で横ばい圏で推移している。岐阜県は1.69倍と2ヶ月ぶりに低下し、三重県は1.44倍と2ヶ月連続で低下したが、愛知県は1.72倍と2ヶ月ぶりに上昇した。新規求人倍率(同)は、愛知県(2.53倍)、三重県(2.00倍)はともに2ヶ月連続で低下し、岐阜県(2.31倍)は2ヶ月ぶりに低下したが、高水準が続いている。

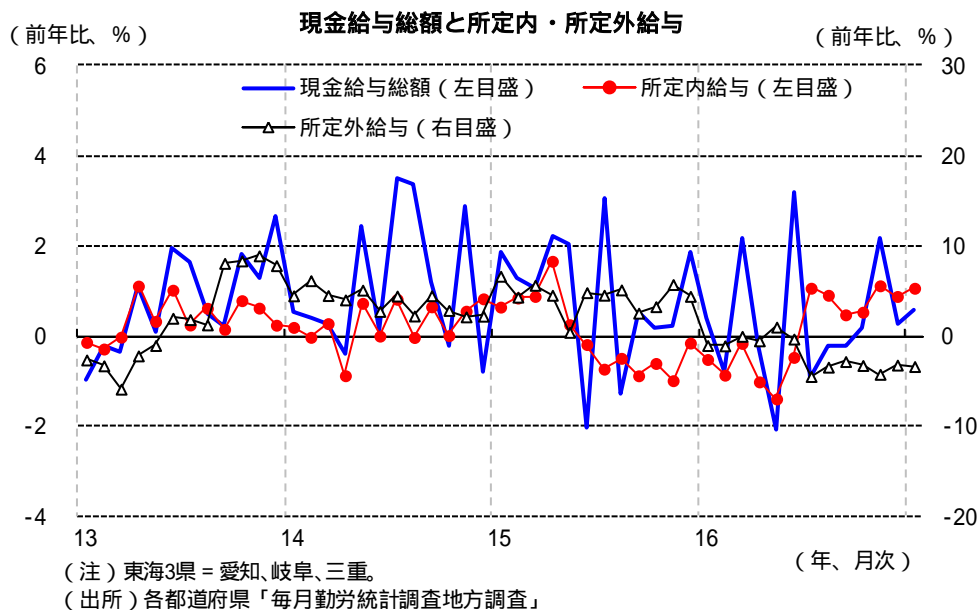


4. 賃金 ~持ち直しの動きが見られる

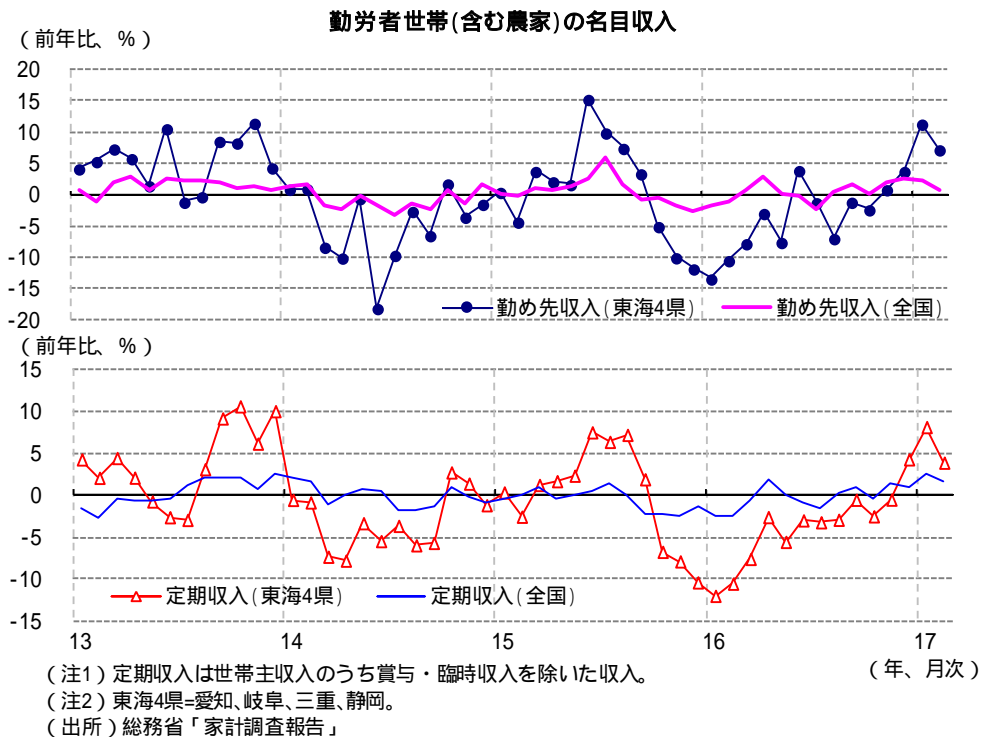
東海3県の1月の名目賃金指数(現金給与総額)をみると、三重県は同-0.7%と2ヶ月連続で低下したが、愛知県は同+0.4%と8ヶ月連続で上昇し、岐阜県は前年比+3.3%と13ヶ月ぶりに上昇した。東海3県の賃金は月毎の変動が大きいですが、均してみると横ばい圏で推移する中、所定内給与が増加するなど持ち直しの動きが見られる。今後については、横ばい圏での推移が見込まれる。



東海3県の1月の一人当たり現金給与総額(加重平均)は、前年比+0.6%と4ヶ月連続で増加した。内訳をみると、所定外給与は同-3.4%と8ヶ月連続で減少したが、所定内給与は同+1.1%と7ヶ月連続で増加した。

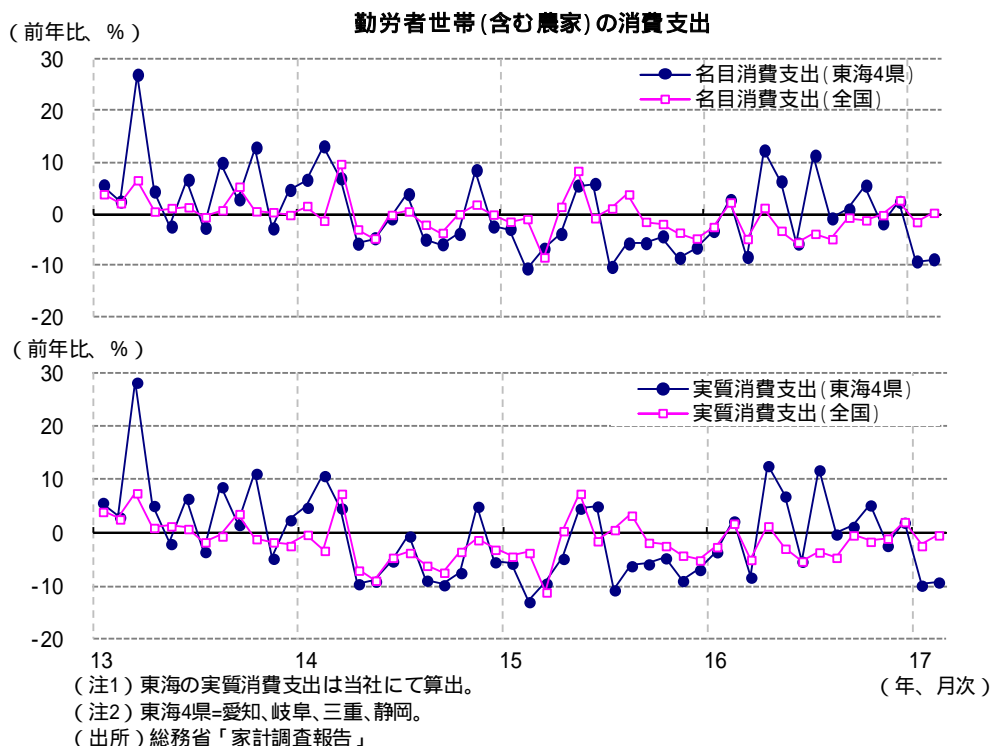


家計調査によると、2月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の賞与を含む勤め先収入は前年比+7.2%と4ヶ月連続で増加した。また、定期収入(世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入)は同+3.9%と3ヶ月連続で増加した。

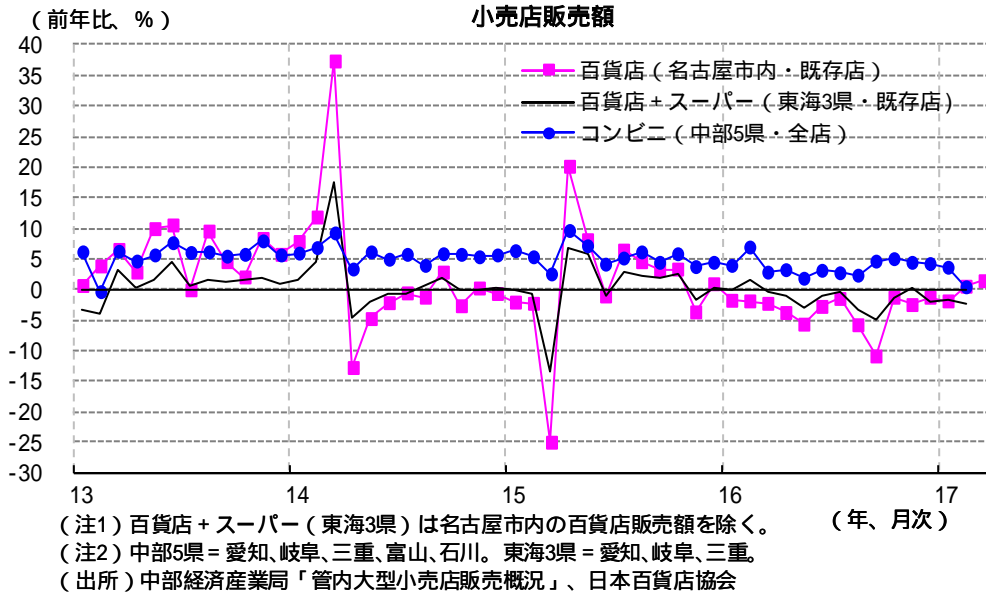


5. 個人消費 ~ 横ばい圏で推移している

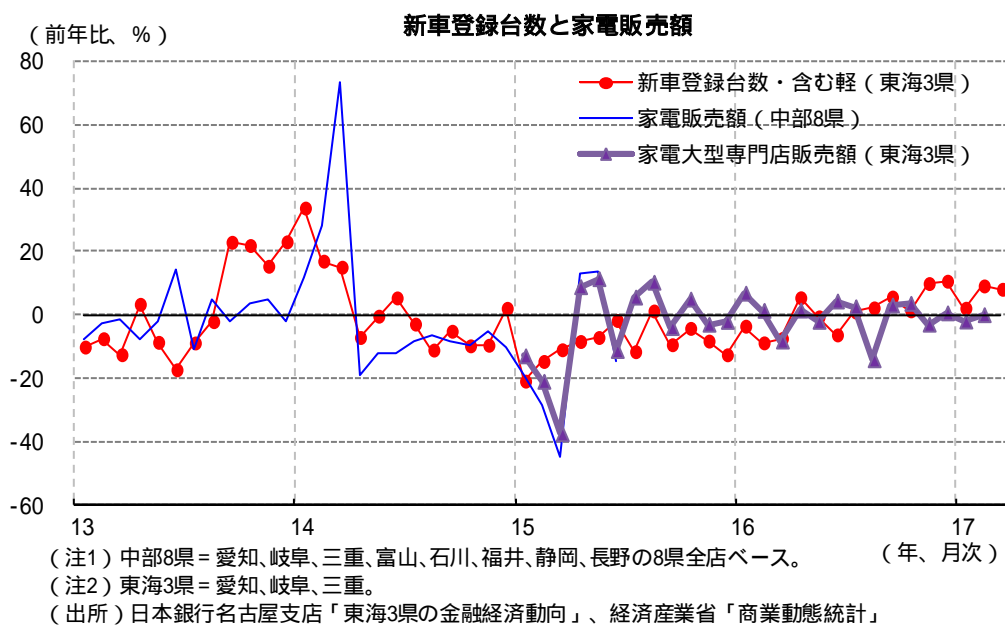
2月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の消費支出は、名目で前年比-8.9%、実質で同-9.1%と、いずれも2ヶ月連続で減少した。個人消費は、他の消費関連の指標も合わせてみると総じて横ばい圏で推移している。今後の個人消費は、実質賃金の増加はあまり期待できず、節約志向も続いており、横ばい圏での推移が見込まれる。



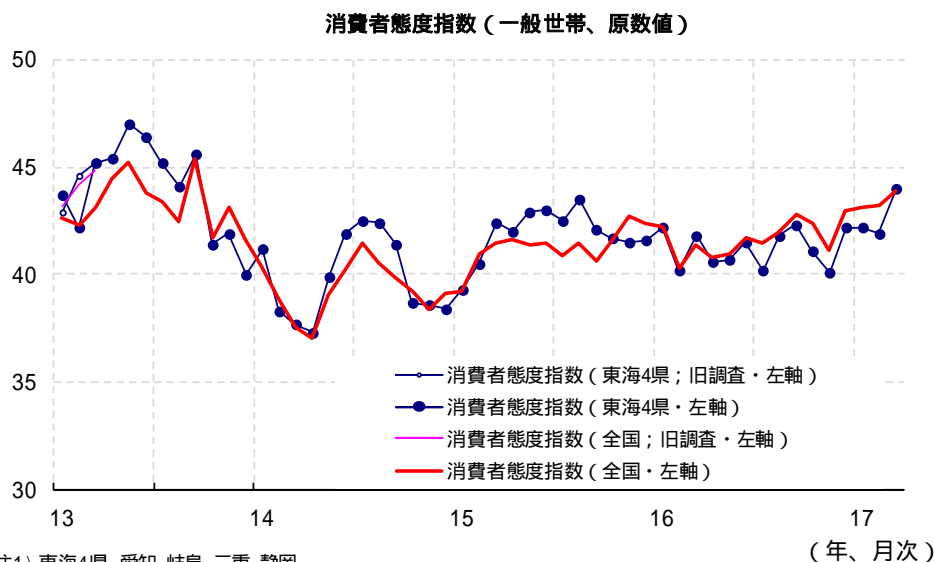
2月の東海3県の大型小売店(百貨店+スーパー、既存店)の販売額は前年比 - 2.2%と3ヶ月連続で減少した。一方、2月の中部5県のコンビニ販売額(全店)は、前年の閏年の反動で伸びが鈍ったものの、同+0.4%と増加が続いた。3月の名古屋市内の百貨店販売額は、名古屋駅前再開発でオフィス勤務者が増えたことや大規模改装の効果により名古屋駅前地区の店舗が全体をけん引し、同+1.4%と2ヶ月連続で増加した。



3月の東海3県の新車登録台数(乗用車、含む軽)は、軽自動車販売は前年比 - 0.9%と2ヶ月連続で減少したが、普通乗用車は同+12.8%と2ヶ月連続で増加、小型乗用車は同+11.3%と5ヶ月連続で増加し、全体で同+8.0%と9ヶ月連続で増加した。一方、2月の東海3県の家電大型専門店販売額は、前年と同水準となった。

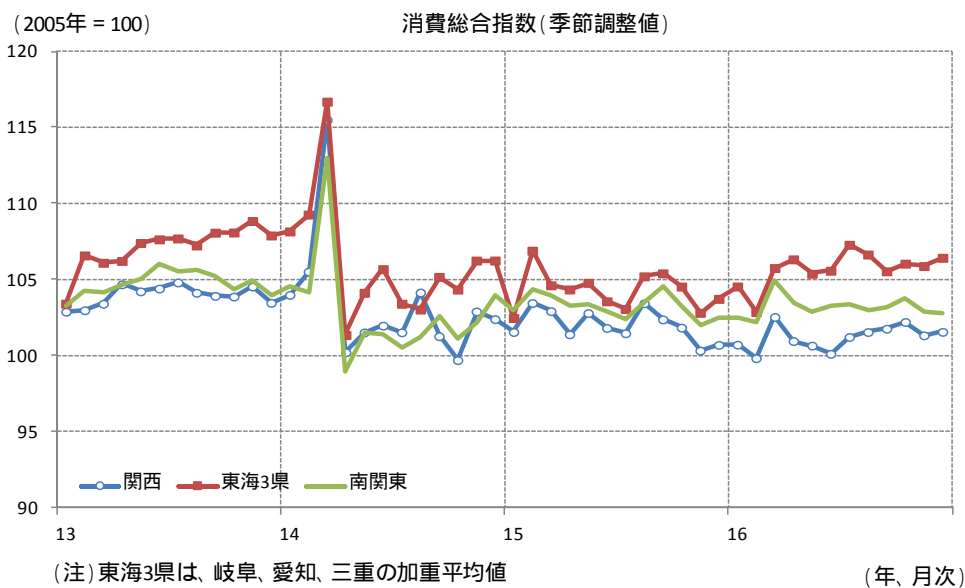


消費者マインドを表す消費者態度指数(東海、一般世帯、原数値)は、3月は前月差+2.1ポイントと3ヶ月ぶりに上昇した。東海の消費者マインドは均して見ると緩やかに持ち直している。今後については、景気に持ち直しの動きが出ているものの、内外情勢の先行き不透明感が続く中で、消費者マインドは横ばい圏での推移が見込まれる。



(注1) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。
 (注2) 消費者態度指数は一般世帯、東海4県は原数値、全国は季節調整値。
 2013年4月調査より調査方法等を変更したため、それ以前の訪問留置調査の数値と不連続が生じている。
 郵送調査の2012年7月~2013年3月は試験調査による参考値。
 (出所) 内閣府「消費動向調査」

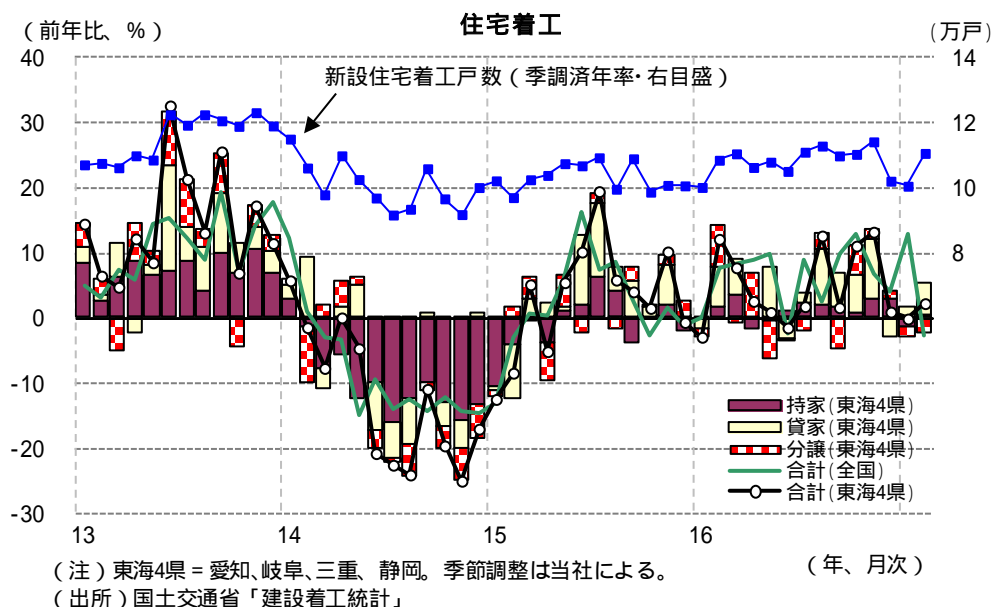
内閣府が2月に公表した地域別消費総合指数によると、東海3県のサービス消費を含む個人消費は、2014年4月の消費税率引き上げ後、水準を下げて横ばい圏で推移してきたが、16年3月以降は水準を幾分上げて、概ね横ばい圏で推移している。



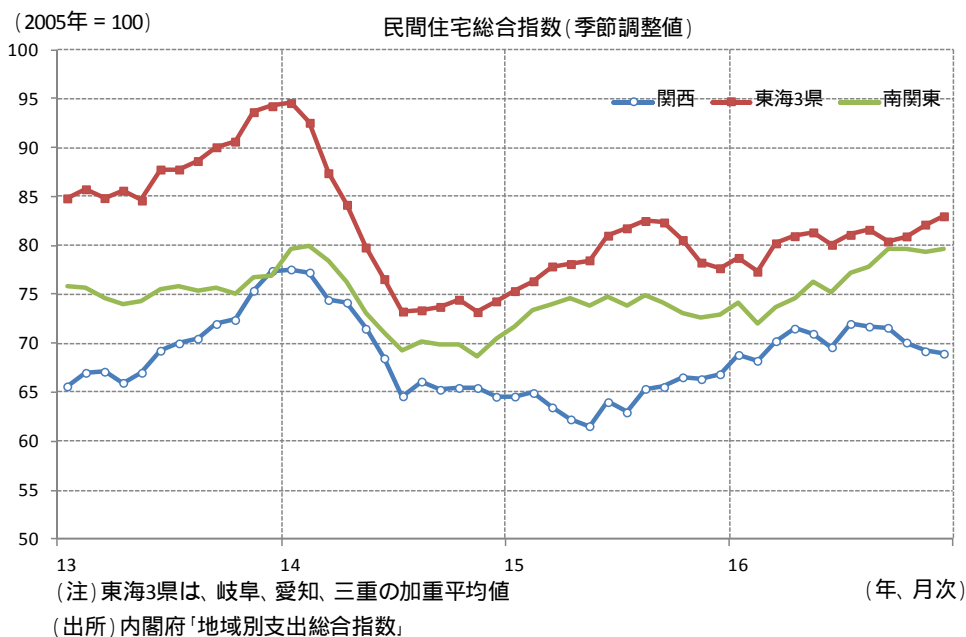
(注) 東海3県は、岐阜、愛知、三重の加重平均値
 (出所) 内閣府「地域別支出総合指数」、「消費総合指数」

6. 住宅投資 ~ 横ばい圏で推移している

17年2月の東海4県の住宅着工戸数(季調済)は、前月比で+10.0%と3ヶ月ぶりに増加したが、均してみると横ばい圏で推移している。前年比では+2.3%(8,779戸)と2ヶ月ぶりに増加した。利用関係別の寄与度は、分譲は2ヶ月連続でマイナスに寄与したが、持家は2ヶ月ぶりにプラスに、貸家は2ヶ月連続でプラス寄与となった。先行きについても、横ばい圏での推移が見込まれる。

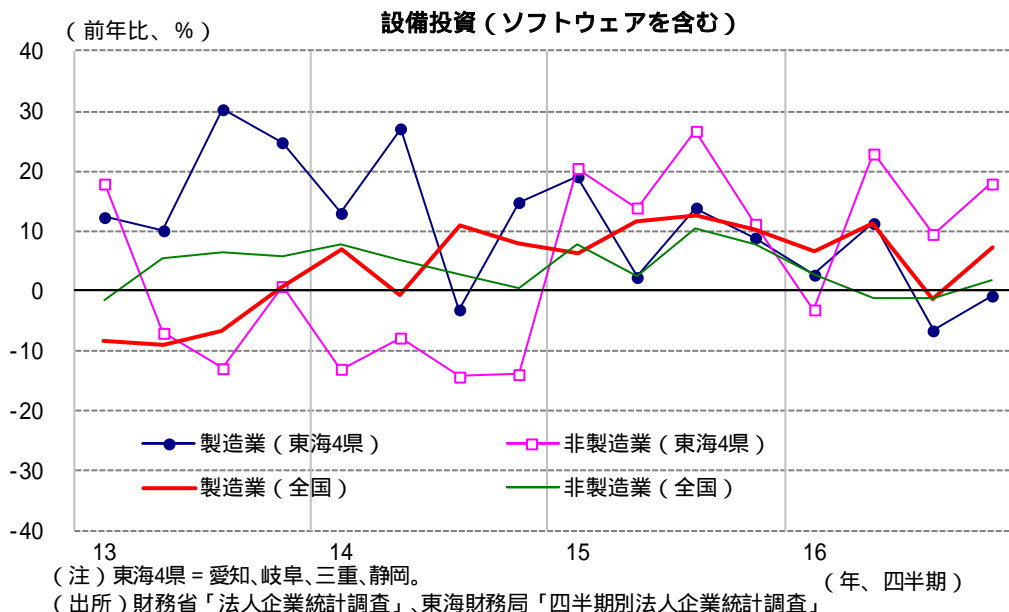


内閣府が2月に公表した地域別民間住宅総合指数によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の工事進捗ベースでの住宅投資の動向は、2015年8月をピークに弱い動きとなった後、16年に入って持ち直しの動きが続いている。

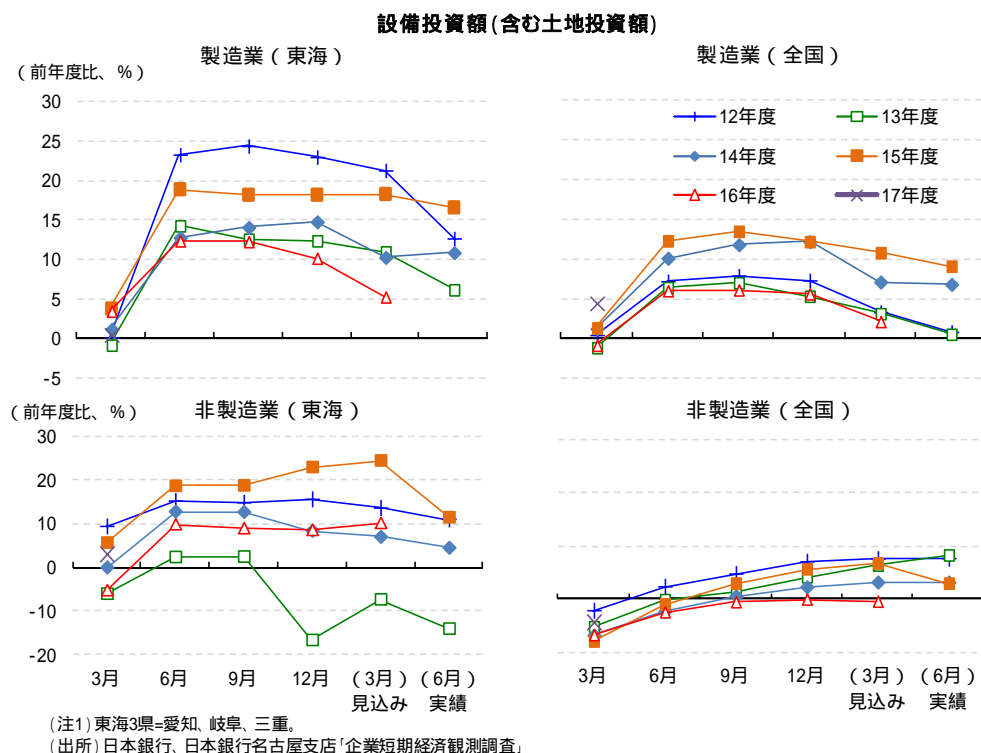


7. 設備投資 ~ 非製造業を中心に増加している

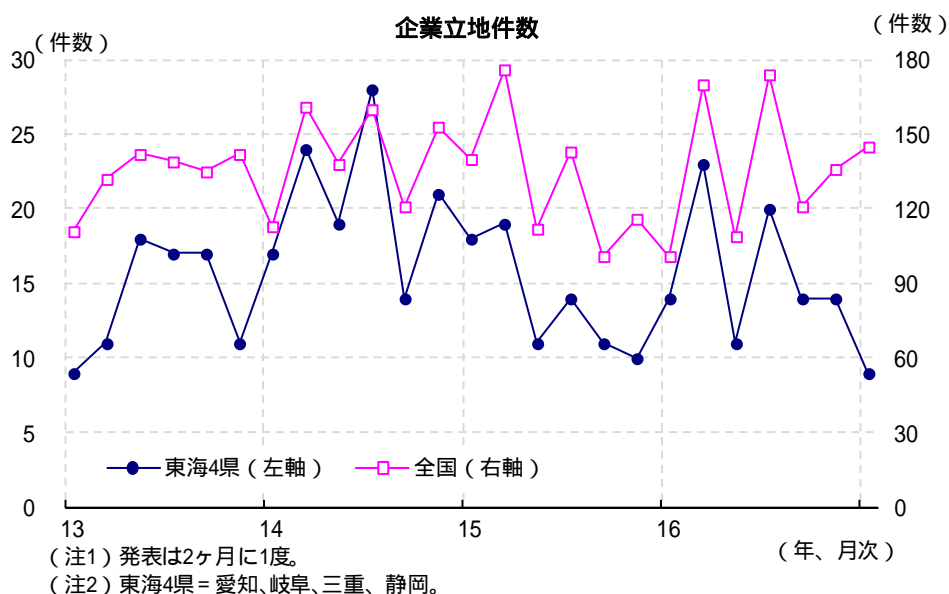
2016年10~12月期の東海4県の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比+7.2%と9四半期連続で増加した。製造業が同-0.8%と2四半期連続で減少したが、非製造業は同+17.9%と3四半期連続で増加した。東海の設備投資は非製造業を中心に増加している。



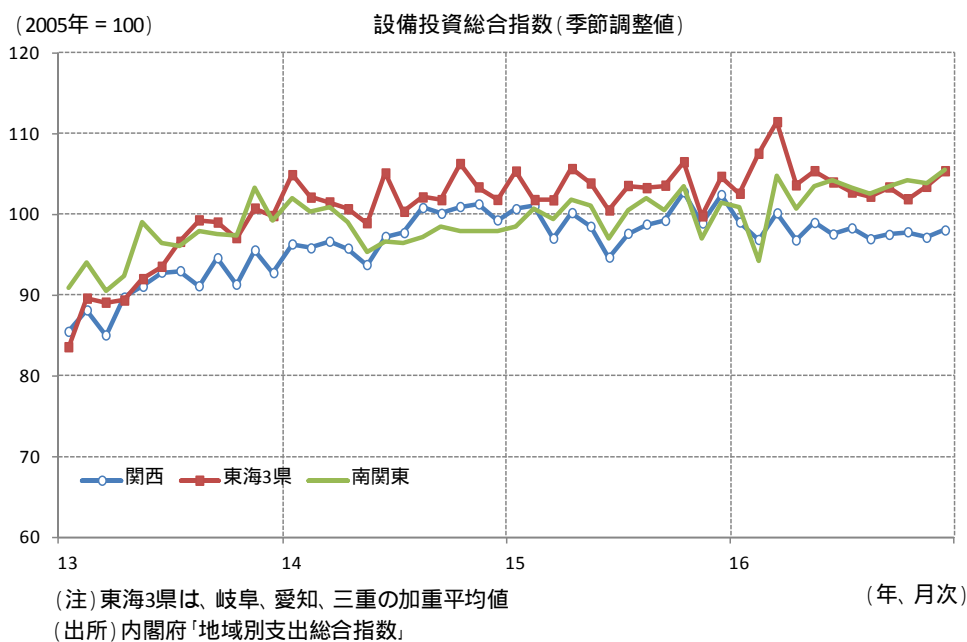
日銀短観3月調査によると、東海3県の16年度の設備投資は、全産業で同+7.5%、製造業同+5.3%、非製造業同+10.2%と全国を上回るペースでの増加が見込まれている。製造業は前回12月調査時の16年度計画に比べて下方修正されたが、非製造業は上方修正となった。17年度については、全産業で同+1.6%、製造業同+0.5%、非製造業同+3.0%と見込まれている。



2016年12・17年1月の東海4県の企業立地件数は9件と、前期(10・11月;14件)、前年同期(14件)を下回った。東海地区の企業立地は全国と同様に15年度前半は減少傾向で推移した後、15年度後半以降は振幅しながらも横ばい圏で推移している。

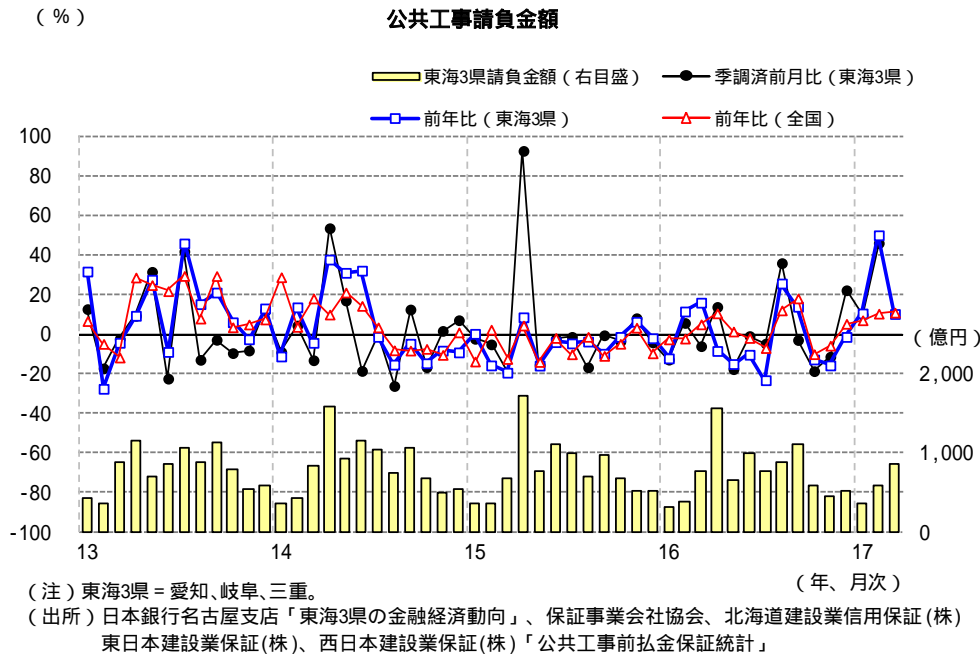


内閣府が2月に公表した地域別民間企業設備投資総合指数によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の民間企業設備投資は、2014年以降を均してみると、高水準で概ね横ばい圏で推移しており、足下は増加してきている。

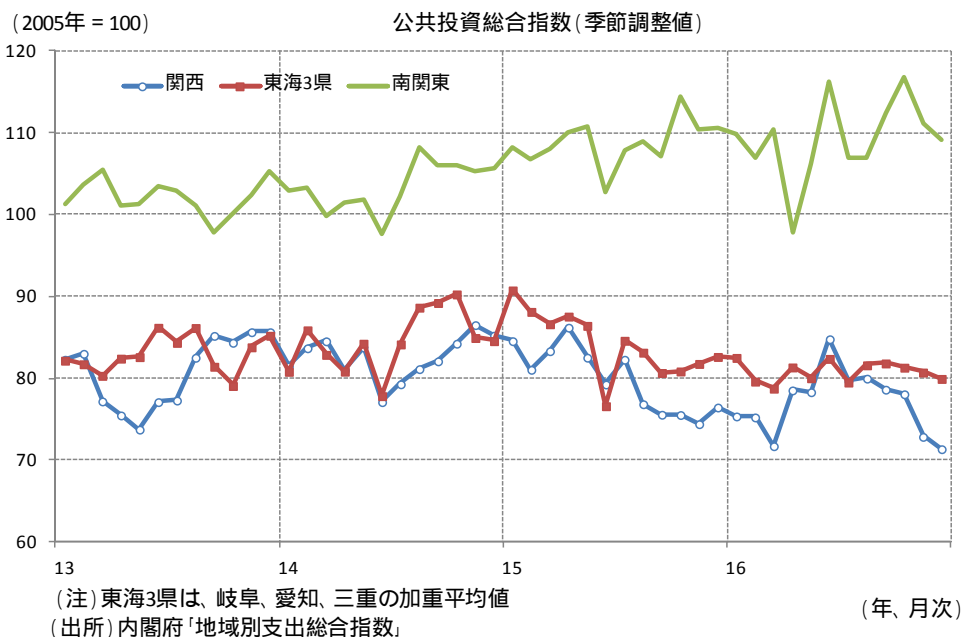


8. 公共投資 ~ 基調は弱含みだが足下で増加

3月の東海3県の公共工事請負額は、前年比+10.2%の861億円と3ヶ月連続で前年を上回った。発注者別では、国が同-29.6%と3ヶ月ぶりに減少したが、地方は同+44.0%と3ヶ月連続で増加した。また、2月の季調済み前月比は+46.0%と3ヶ月連続で増加した。16年度第二次補正予算執行に伴う工事が出ている可能性がある。一方、年度累計(16年4月~17年3月)で見ると、前年比-1.6%と前年度を下回っており、弱含んでいる。

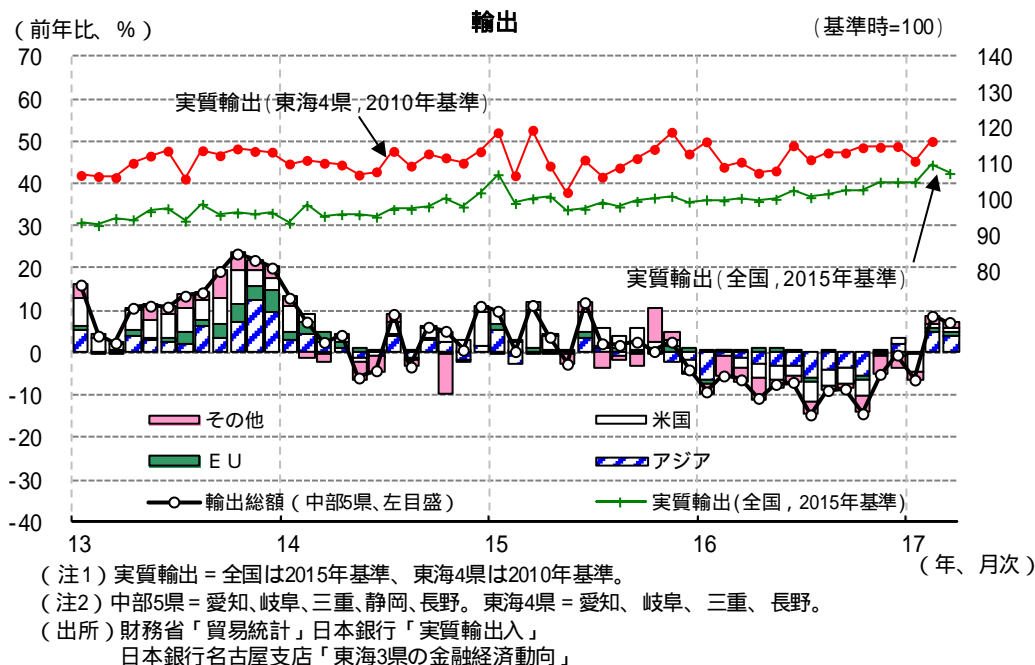


内閣府が2月に公表した地域別公共投資総合指数によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の工事進捗ベースでの公共投資は、2015年度に入って以降減少し、16年度に入ってから概ね横ばい圏で推移しているが、足元では弱含みとなっている。

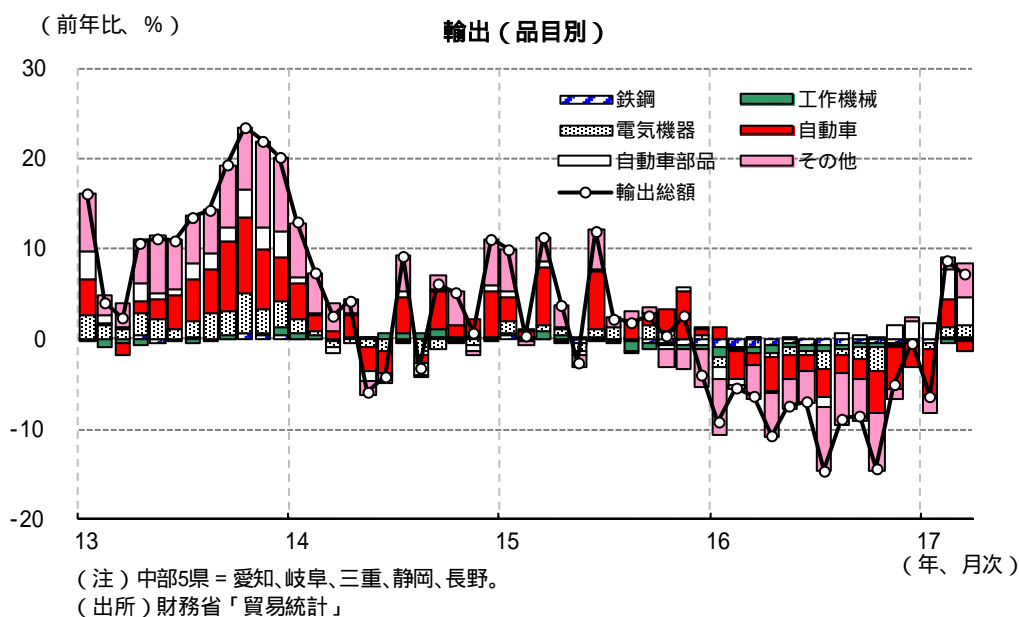


9. 輸出入 ~ 輸出は持ち直し、輸入は横ばい

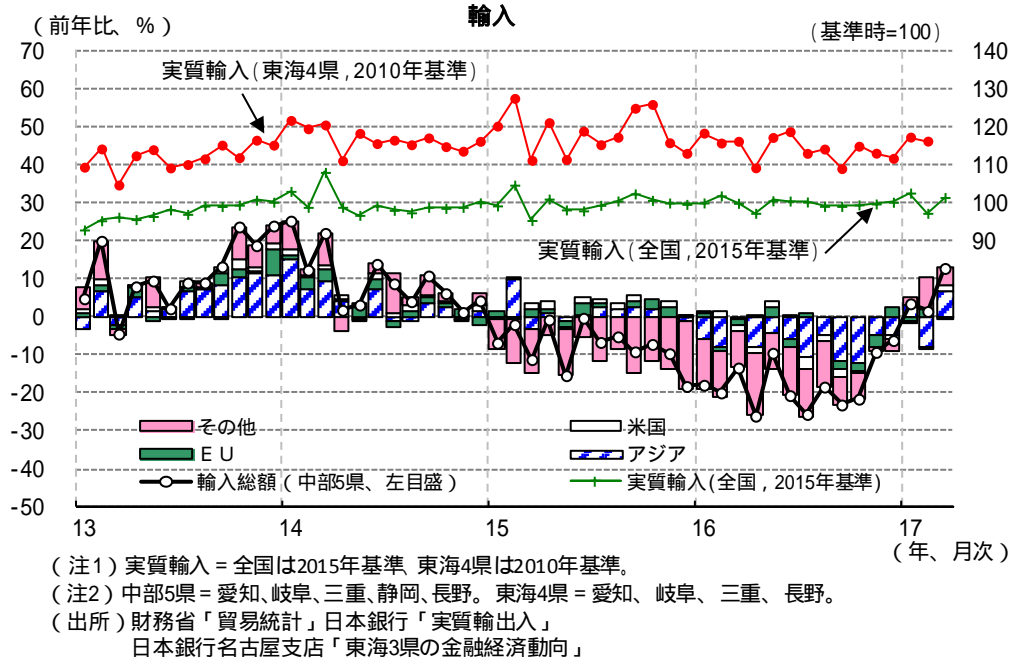
2月の実質輸出(季調済)は前月比+5.0%と2ヶ月ぶりに増加した。また、3月の名古屋税関管内の輸出額は前年比+7.2%と2ヶ月連続で増加した。米国向けは同+3.5%、EU向けは同+5.3%と増加し、中国向けは同+24.0%、アジア向け(含む中国)は同+11.4%と増加した。先行きについては、世界経済が緩やかに回復する中、緩やかな持ち直しが見込まれる。



3月の名古屋税関管内の輸出額(速報)を品目別にみると、工作機械(前年比-7.5%)は2ヶ月連続で、自動車(同-3.0%)は2ヶ月ぶりに減少したが、自動車部品(同+25.9%)は8ヶ月連続で増加し、鉄鋼(同+18.7%)と電気機器(同+10.6%)はそれぞれ2ヶ月連続で増加した。

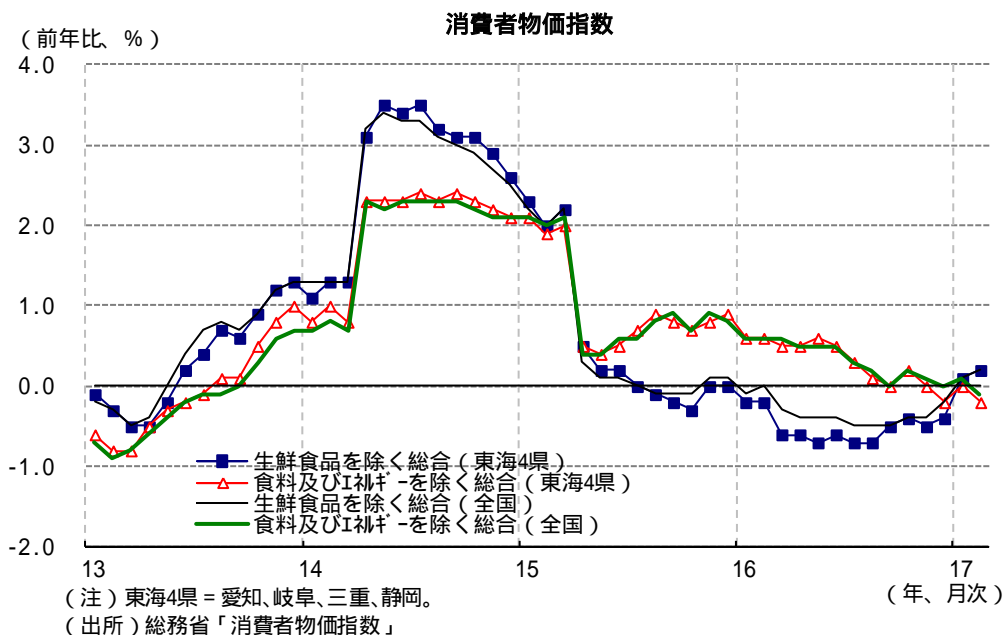


2月の実質輸入(季調済)は、前月比 - 0.9%と2ヶ月ぶりに減少したが、均して見ると横ばい圏で推移している。一方、3月の名古屋税関管内の輸入額は前年比 + 12.7%と3ヶ月連続で増加した。品目別には、航空機類などが減少したが、原油及び粗油、石油製品などが増加した。地域別には、EUなどは減少したが、アジア、米国などは増加した。今後は、国内の需要動向を反映して、実質輸入は横ばい圏での推移が見込まれる。



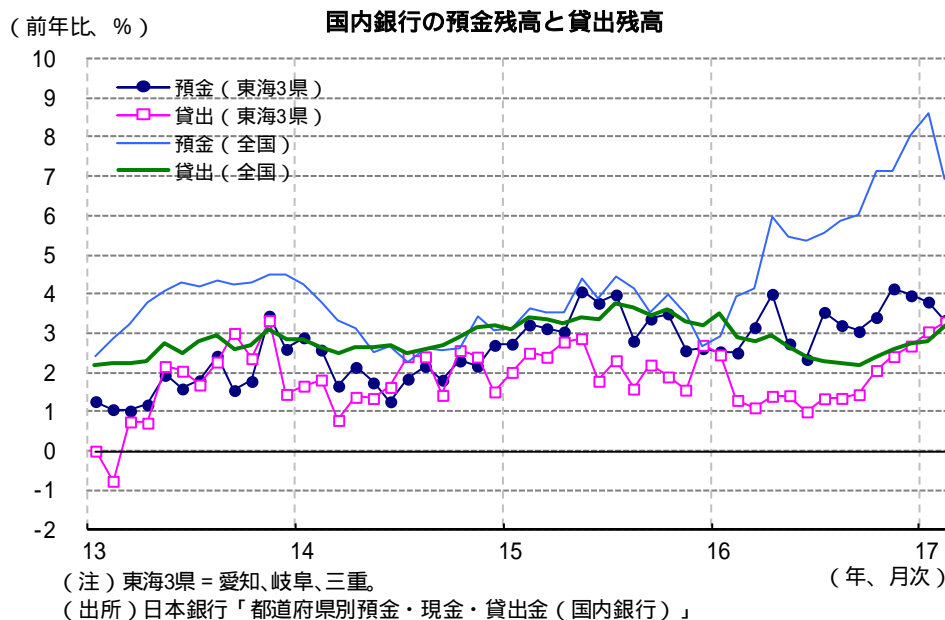
10. 物価 ~ 横ばい

2月の東海4県の消費者物価は、生鮮食品を除く総合で前年比 + 0.2%と2ヶ月連続で上昇した。食料品価格は上昇したが、エネルギー価格の低下が続いている。食料・エネルギーを除く総合は同 - 0.2%と2ヶ月ぶりに低下した。今後については、エネルギー価格の下落は一巡しており、円安による輸入物価上昇の影響もあって、消費者物価の前年比プラス幅は緩やかに拡大していく見込みである。



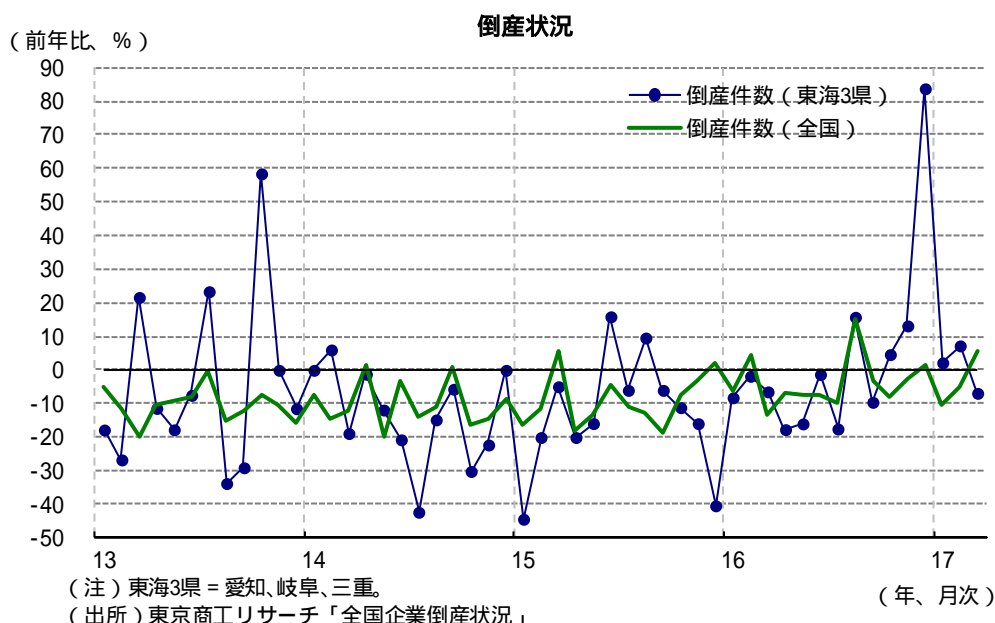
11. 金融 ~ 預金、貸出ともに増加

17年2月の東海3県の預金残高(国内銀行ベース)は、法人預金が増加していることを主因に、前年比+3.3%と増加が続いている。貸出残高(国内銀行ベース)は、同+3.3%と48ヶ月連続で増加した。日銀名古屋支店では資金需要が幾分持ち直しつつあることが増加の要因とみている。貸出残高は今後も緩やかな増加が続くと見込まれる。



12. 倒産 ~ 倒産件数、負債総額ともに減少

3月の東海3県の倒産件数は前年比-6.8%の68件(前年同月73件)と6ヶ月ぶりに減少した。県別では、岐阜県は12件(同11件)と2ヶ月ぶりに増加したが、愛知県は48件(同50件)と5ヶ月ぶりに減少し、三重県は8件(同12件)と3ヶ月連続で減少した。また、3月の東海3県の負債総額は、同-49.6%の70億円と6ヶ月ぶりに前年を下回った。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗	☁	↗	全国	↗	☁	↗	
	東海	→	☁	→	輸出	東海	↗	☁	↗
	関西	↗	☁	↗	関西	↗	☁	↗	
個人消費	全国	→	☁	→	輸入	全国	→	☁	→
	東海	→	☁	→	東海	→	☁	→	
	関西	→	☁	→	関西	→	☁	→	
住宅投資	全国	↘	☁	→	生産	全国	↗	☁	↗
	東海	→	☁	→	東海	→	☁☀	→	
	関西	↗	☁	→	関西	↗	☁☀	↗	
設備投資	全国	↗	☁	↗	雇用	全国	↗	☀	→
	東海	↗	☁	↗	東海	→	☁	→	
	関西	↗	☁☔	↗	関西	↗	☁	→	
公共投資	全国	↘	☁	↗	賃金	全国	→	☔	→
	東海	↘	☁	→	東海	→	☁	→	
	関西	↗	☁	↗	関西	→	☔	→	



: 晴れ



: 薄日



: 曇り



: 小雨



: 雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す
 2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す
 3. 全国は4月4日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。
 4. 関西については、東海のレポート公表時の暫定であり、関西のレポート公表時に見直す場合がある

【各項目のヘッドライン】

項目		3月のコメント	4月のコメント
1. 景気全般	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる	横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる
	関西	持ち直しの動きが見られる	緩やかに持ち直している
2. 生産	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	持ち直しの動きが一服している	横ばい圏で推移している
	関西	緩やかに持ち直している	持ち直している
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
5. 個人消費	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移している
6. 住宅投資	全国	緩やかに減少している	緩やかに減少している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
7. 設備投資	全国	緩やかに増加している	緩やかに増加している
	東海	非製造業を中心に増加している	非製造業を中心に増加している
	関西	製造業を中心に持ち直しの動きが見られる	製造業を中心に持ち直しの動きが見られる
8. 公共投資	全国	減少している	減少している
	東海	基調は弱含みだが足下で増加	基調は弱含みだが足下で増加
	関西	基調は増加しているが、足下で減少	基調は増加しているが、足下で減少
9. 輸出入	全国	輸出は持ち直している、輸入は横ばい圏で推移している	輸出は持ち直している、輸入は横ばい圏で推移している
	東海	輸出は持ち直しの動きが一服、輸入は横ばい	輸出は持ち直し、輸入は横ばい
	関西	輸出、輸入ともに横ばい	輸出は持ち直し、輸入は横ばい
10. 物価	全国	企業物価、消費者物価とも緩やかに上昇	企業物価、消費者物価とも緩やかに上昇
	東海	横ばい	横ばい
	関西	横ばい	横ばい
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに減少
	関西	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数は減少、負債総額は増加

(注) 1. シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

2. 関西については、東海のレポート公表時の暫定であり、関西のレポート公表時に見直す場合がある

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

(注)

現況を問わず天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国(グラフで見る景気予報)と関西地区(グラフで見る関西経済)の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。